



聴講者
募集中

2026 公開講座

ショパンに求められたもの、 ショパンが嫌ったもの

【 講 師 】 関口 時正

2026年 **10月17日(土)** 18:00 開演 **カワイ梅田 コンサートサロン「ジュエ」**

●日本ショパン協会関西支部会員：無料 ●一般：2,000 円 ●学生：1,000 円

1830年のクリスマスをウィーンで過ごしたショパンは、ポーランドにいる男友達マトウシンスキ宛にこう書いた——「できるものなら、この行き場のない、荒れ狂う、猛り狂う気持ちが僕にけしかける、ありったけの音を動員して、ヤンの軍勢が歌っていた、散り散りになったその残響がいまでもまだドナウの両の岸辺のどこかしらに漂っているかもしれない歌の数々を——そのほんの一部でもいいから探りあててみたい」(ショパン全書簡78)。ここでショパンが書いている、ヤン三世ソビエスキ王率いる兵士たちが歌っていた歌というのはどういう歌であったのでしょうか？——そういう質問をあるピアニストから受けた私は、この宿題に取り組んでみた。いろいろ考え、調べているうちに、ショパンを取り巻いていたポーランド語の空間がどんな言葉と音(楽)で充満していたか、わかったように思う。と同時に、ほとんどのポーランド人がショパンに何を求めていたかという問題にもゆきついた。

一年後、今度はパリのクリスマスに、ショパンは親友ティトウス宛てに書いた手紙(全書簡96)で、自分がどういう音楽(家)を憎むかということを引きわめて強い口調で語っている。ショパンが嫌ったものを知ることは、彼がめざしたものを知る手がかりにもなるだろう。

今回の公開講座ではポーランド文学翻訳の第一人者、関口時正先生に、19世紀のポーランド文化、とりわけショパンを取り巻く状況や背景、ショパン自身の価値観についても貴重なご講義を頂きます。また、自らの作品に表れた「独創性」や「芸術性」とは何か、ということと共に考え合いたいと思います。多くの方がたのご参加をお待ちしています。
当日ミニ対談：北村智恵(日本ショパン協会関西支部長)



関口 時正 Tokimasa Sekiguchi

東京大学仏文科卒. 1991-2013——東京外国語大学教員(ポーランド文化). 現在同大名誉教授. 2018——第69回読売文学賞(翻訳), 第4回日本翻訳大賞. 《ポーランド舞台芸術作家・作曲家連盟 ZAiKS 賞》. 2019——ポーランド《フリデリク・ショパン協会賞》. 2020——《ポーランド共和国功労勲章コマンドル十字章》. 2021——The Book Institute《Transatlantyk 賞》. 名誉称号《在外ポーランド語大使》. 2025——ポーランド文化省《Gloria Artis 金章》叙勲. 著書に『白水社ポーランド語辞典』(共編), 『ポーランドと他者』(みすず書房刊), Eseje nie całkiem polskie(ポーランド Universitas 刊), 『若きポーランド 手がかり』(未知谷). 訳書に『ショパン全書簡』シリーズ(岩波書店・共訳), 『ショパン歌曲集』『ポーランドのクリスマス聖歌 12 のコレンダ』(以上ハンナ), アダム・ミツキューヴィチ作『バラードとロマンス』(未知谷)他.
日本ショパン協会特別会員.

【お問い合わせ・お申し込み先】

日本ショパン協会関西支部事務局(カワイ大阪オフィス内)
下記ご記入の上、FAX またはメールにてお申込みいただくか、
右記二次元コードより Web にてお申込みください。



【Web お申込みフォーム】

<https://forms.gle/oMZM8pgVuCz56YV78>

■ 2026 公開講座 申込書 <FAX 06-6264-5254> <MAIL chopin-kansai@kawai.co.jp>

お名前			
TEL		Mail	
区分	☐ 日本ショパン協会関西支部会員	☐ 一般	☐ 学生

※記入された個人情報は、協会からの各種ご案内に使用いたします。法令で定める場合の他、お客様の承諾なしに別目的で使用いたしません。

日本ショパン協会関西支部 会員募集中 ショパンを愛する方ならどなたでもご入会いただけます。

